

# WCPFC北小委員会の結果についての JF全漁連コメント

7月16日、WCPFC北小委員会が閉会した。

今回の北小委員会において、9年の長期にわたって実践してきたくろまぐろ資源管理の取組が功を奏し、当初想定より非常に速い速度で資源の回復が見られた結果、大型魚50%、小型魚10%の増枠が合意された。

また、我が国が提案した小型魚に1.47倍を乗じて大型魚に換算できる措置の一般ルール化及び適用上限（現行30%）の撤廃、並びに前年未利用分の17%を上限に翌年に繰り越しできる現行措置の一般ルール化が合意された。

これらに対し、交渉にあたった水産庁の昼夜を分かたない尽力に心より敬意を表するとともに、本年12月の年次会合の合意に向け、引き続き力強い交渉をお願いしたい。

一方、今回の増枠は、特に小型魚について、必ずしも資源の増加速度に見合う十分な量とは言えず、小型魚を漁獲対象とする沿岸小規模漁業者にとっては引き続き厳しい措置が強いられるため、国におかれては、大型魚も含めて漁獲枠の配分・運用において、特段の配慮を求めるものである。

また、くろまぐろ資源管理措置の実践に苦勞してきた漁業者に対し、現場の実態を十分に踏まえたあらゆる措置を講じていただきたい。

2024年7月16日

全国漁業協同組合連合会